

水戸教育事務所だより

寄り添う事務所 ・ 育成する事務所

第 26 号

2023年2月22日

相談室

茨城県いじめ・体罰解消サポートセンター

専門医相談のご案内



水戸教育事務所では、**専門医による相談を毎月原則第3月曜日に実施**しています。精神科の医師であり臨床心理士の専門医が、45分の時間の中で相談者の悩みや困りごとを丁寧に傾聴し、一緒に考えていきます。対象は保護者、児童生徒、教職員などです。児童生徒の不登校、情緒や発達、友人関係など様々な相談に応じています。

担任の先生が対象の児童生徒について専門医に学校での支援方法を相談し、さらに学校や当センターが対象の保護者に相談を勧めたことにより親子で相談する機会ができ、改善につながったケースもあります。ぜひ専門医相談を多くの方々にご紹介ご利用いただければと考えております。お気軽に **029-221-5550** にお問い合わせください。

一人でも多くの児童生徒が安心して、より楽しく学校生活を送ることができるように一緒に考えていきましょう。

春夏冬話（あきない話）

「世界にたった一人の人間、たった一つの名前！」



私が中学校で野球部の顧問をしていたころ、当時としては珍しく、ひと学年22人もの部員がいた時のことである。ベンチ入りできるのは20人、しかも、これまで3学年すべての部員の中から登録メンバーを決めてきた。子供たちには、常々、「誰にも平等にチャンスを与え、学年関係なくチームの代表をメンバーに登録する」と言ってきた。とはいえ、中学野球においては、3年生を押しつけて下級生がメンバーに入るの難しいことである。3学年合わせても登録メンバーに満たないのなら話は別だが。

3年生全員をベンチに入れても、2人余ってしまう。2年生を入れようものなら、また3年生が押し出される。そこで、考え抜いたあげくに、19番、20番の選手のユニフォームをベンチに入れなかった2人に着せ、大会2日目のベンチに入れたのである。「やった、これで、3年生全員をベンチに入れてやる事ができた。」私は、満足感でいっぱいであった。

ところがその夜、19番のユニフォームを着せてベンチに入れた子供の親から猛烈な抗議の電話をいただいた。「息子は、〇〇という名前のついた世界にたった一人の大切な人間なんだ。それを人の名前を語り別人に成りすましてベンチに入れるだなんて。世界にたった一人、世界にたった一つの名前を持った大切な息子のことを、何だと思っているんだ。」弁解の余地もなく電話は切れた。次の日、これまで配布した文書や野球部だよりが綴られたファイルを突き返された。

頭をハンマーで叩かれたような衝撃と、子供のために良かれと思ってとった浅はかな自分の行動を心から恥じた、悔やんだ、反省した。「ルールを守れ」「悪いことをするな」と言ってきた自分が、自らルール違反を犯し、その不正に子供たちを巻き込んでしまったのである。

なんて取り返しのつかないことをしてしまったのか。悔やんでも悔やみきれない大罪を犯してしまった。この過ちを一生背負って生きていかなければならないと思った。

成人式の夜に行われた同窓会で久しぶりに本人に出会ったとき、「先生の厳しい練習のお陰で、高校や大学に行ってもどんな苦しいことや辛いことがあっても乗り越えることができました。」の言葉が、せめてもの救いであった。(by I・K)